

HYPER FLASH

別府湾会議特集号

vol.40
Jan.2008

ハイパーネットワーク2007別府湾会議

〈ネットライフの現在と未来～次の“ワクワク・ドキドキ”って何!?～〉

財団法人ハイパーネットワーク社会研究所 副所長
研究員

会津 泉
倉掛 崇

P.02

ボーダーレスなネットインフラ上での人間同士のつながり

NPOパンゲア 副理事長兼最高技術責任者(CTO)

高崎 俊之

P.05

佐賀県の情報化と公民連携によるイノベーション

佐賀県 最高情報統括監(CIO)

川島 宏一

P.06

ネット技術の未来像

—新世代ネットワークの研究開発に向けて—

東京大学大学院情報理工学系研究科 教授

江崎 浩

P.08

IPv4アドレスの在庫枯渇問題について

社団法人日本ネットワークインフォメーションセンターIP事業部 課長代理 穂坂 俊之

P.10

トピックス 情報弱者と人権

P.12



ボーダレスなネットインフラ上での人間同士のつながり

NPOパンゲア 副理事長 兼 最高技術責任者(CTO) 高崎 俊之

インターネットにより人間はボーダーレスに即時・安価につながることができる環境を手にした。インフラは高速化・無線化が進み、より便利な環境が整いつつある。デジタルデバイド問題には国際機関やNGOが積極的に対策を講じている。世界的にネットはつながっているが一つ疑問が残る。我々人間同士はつながっているだろうか？

本会議セッション1では、FacebookなどのSNSやWeb2.0的交流シーンの例、Second Lifeなど仮想交流空間、また国家間のつながりとして情報国家に関する講演もあり、私見だが、人同士のつながりについての議論が全体を通して多かったと思う。その中で私はパンゲアについて話をさせて頂いた。

パンゲアプロジェクトとは、世界の子ども達が、言語・距離・文化背景・経済状況の違いを越えて“つながり”を育む遊び場：ユニバーサルプレイグラウンドを構築する非営利活動である。児童館や公民館などに地域の子ども達が保護者の許可のもと定期的に集まり、大人のファシリテーターと共に国際的なつながりを目的とした創作活動や遊びコンテンツを楽しむ。パンゲアネットと呼ばれるSNSのような専用プラットフォームを使って創作作品を共有・交流する。またWebカメラによる同期イベントも適宜開催している。日本・韓国・オーストリア・ケニアなどに活動拠点を持つ。

2001年に米国MITメディアラボで客員研究員をしていた私は、当時一緒に仕事をしていた森由美子(現在、当法人理事長)と911同時多発テロ事件を目の当たりにし、その後の報道のあり方やその影響を受ける一般

市民について色々と考えさせられた。民族や宗教に関わらず、どこの国にも良い人も悪い人もいる、ということを頭で理解していても心で感じることが21世紀になっても難しいんだな、と実感した。無知から恐怖、恐怖から敵意という世界の悪循環を少しでも避けられたらと思い、技術を平和利用するピース・エンジニアリングをスローガンにNPO法人パンゲアを発足させた。国際交流＝英語教育という教育現場の趨勢は、母国語よりも英語の方が優れている言語だという誤ったメッセージを暗にほのめかし、子ども達は敏感でそれを察知している。パンゲアでは、英語などの単一言語利用ではなく情報技術を活用して絵文字やノンバーバルなコミュニケーション手段を導入している。正確な情報伝達よりも感性コミュニケーションを重視し、アクティビティコンテンツを綿密にデザインすることで、言葉の通じない相手との顔が見える“つながり”を紡ぎだすことにチャレンジし続けている。

本会議ではIPアドレス枯渇問題・学校での携帯電話利用実態なども議論され、ネットの光と影の両面について更に深く考えるきっかけを与えて頂いた。様々な課題はあるものの、現実としてインターネットが今後も世界的に利用されていく潮流は否めない。その中で技術・法律・教育手法などが今後一段と整備され、黎明期の今のようなヒヤヒヤ感は緩和され、更なるワクワクドキドキが生まれ、人と人との豊かにつながっていくことを期待したい。最後に本会議を開くにあたり御尽力頂いた関係者の皆様に感謝したい。